



201号
2015 / 3 / 1

日中文化交流市民サークル‘わんりい’
東京都町田市能ヶ谷7-32-12 田井方
〒195-0053 TEL&FAX:042-734-5100
<http://wanli-san.com/>
Eメール:wanli@jcom.home.ne.jp
◆‘わんりい’ HPのアドレスが上記になりました。



「練飴で龍を作る飴職人」 2015年2月22日 瀋陽 撮影：満柏

瀋陽のデパートの一角、職人がたくさん手つきで飴をあやつり、いろいろな干支の動物をあつという間で作り上げていた。

‘わんりい’ 3月号の目次は最終ページにあります。

2015年も、既に2か月が過ぎて、花の便りが届くようになりました。間もなく、桜前線も北上を始め、お花見の相談が具体性を帯びて来ることでしょう。気象が異常だ、天候が不順だと言われながらも、季節はめぐり、植物は芽を出し、花を咲かせます。厳しい冬の後の、花の便りは嬉しいもので、毎年繰り返される自然の営みを有難く感じます。

植物達が頑張って、季節感を運んでくれるのに引替え、動物界は、少し様子が違うようですね。ツバメの飛来が減ったとか、赤トンボやセミが激減したとかは、その季節が到来する度によく聞くことです。代わりに、我々が免疫を持たないウイルスを運ぶ蚊とか、毒グモとか、亜熱帯性の動物が東京にも現れ、我々の生活を脅かしています。

皆さんは、最近スズメを見かけますか？ スズメは、インドやシベリアを除く、ユーラシア大陸のかなり広い部分に生息し、幾つか亜種もあるようですが、日本に生息する種は、人間の生活する場所で餌を捕り、子育てをする習性があるようで、人の近くにいることで、外敵の攻撃をかわして、身の安全をはかっているのだそうです。人がいなくなった部落からはスズメも消えてしまうことすらあると言われています。

昔から我々の身近にいて、特に関心も持たずに過ぎてきたスズメですが、これも数を減らしている動物の一つです。私の家の直ぐ目の前に、大きなお寺の境内の森があって、季節になるとウグイスやカッコウ、カエルの鳴き声等が聞こえます。そんなのどかな場所ですが、最近、スズメを見たことがありません。

スズメの生息数の調査で、その数が減少しているのは確認されていますが、その原因となると、未だはっきりしたことは分からないのだそうです。家の軒先や、屋根瓦の隙間に巣を作るスズメにとって、高層マンションは勿論、一戸建て家屋でも近代的な建築では、巣を作るスペースが取れないこと、田んぼでは農作業が機械化されて、餌となる穀類のおこ

ぼれがなくなったことなどが、減少の大きな要因の一つと考えられています。いずれにしても、我々人間が快適に生活することで、昔からの友達の生存を脅かしているのは、残念なことです。

と、前置きが長くなってしまいましたが、今月は北京のスズメについてお話したいのです。皆さんは、北京でスズメを見たことがありますか？ 以前、東京でもスズメがよく見かけられた頃、北京のスズメは少ないと感じました。ところが最近、東京のスズメが少なくなってからは、北京の方が多いのではないかと思うようになりました。つまり、北京のスズメの数は変わらないで、東京で数が減った分、多くなったように感じるのではないかと考えます。

そしてそのスズメ、日本のスズメと比べると、身体が小さいように感じるのはです。日本で生活したとのある友人に話すと、「そんなことはない。同じだ。」というのですが、私は確かに小さいと思います。捕まえて計ったわけではありませんが、感覚的に、成長した子スズメ位と思います。ご存知のように、小鳥は巣立つ頃には、殆ど親と同じ様子になりますが、一緒にのところを見ると、やはり親よりは少々小ぶりですね。それ位の違いです。

北京のスズメのお話をしたかったので、ネットで少し調べてみました。そこでは、中国のスズメも日本と同じ種類であるように書かれています。大きさの違いなどは書いてありませんから、同じと考えなければいけないのですが、私には、どうしても小さいように見えるのです。皆さん、北京へいらしたら、是非スズメを観察してみてください。

所謂観光名所では見られないかも知れませんが、お泊りのホテルの近辺の路地裏へ入ってみると、地面を飛び跳ねて餌を探しているスズメに遇えるかもしれません。或いは公園の、皆が集まってダンス等の活動をしている広場や、芝生の片隅で餌をついばんでいるのが見られるかも知れません。北京のスズメは、市内のあちこちにある大きな公園のブッシュをすみ処としているようです。

jìng guǐ shén ér yuǎn zhī
敬鬼神而遠之。
きしん けい これとお ようや
鬼神を敬して之を遠ざく〈雍也第六〉

桜美林大学名誉教 / 孔子学院講師 植田渥雄



この表題の前後は次のようになっています。樊迟问知(Fán chí wèn zhī)。子曰(Zǐyue)、务民之义(Wù mín zhī yì)、敬鬼神而遠之(jìng guǐ shén ér yuǎn zhī)。可谓知矣(Kě wèi zhī yǐ)。(樊遲知を問う。子曰く、民の義を務め、鬼神を敬して之を遠ざく。知と謂うべしと)。樊遲という弟子が「知」について孔子に尋ねたところ、孔子は「人間としてやるべきことをやりなさい、鬼神のことは敬して遠ざけなさい、これが「知」というものです、と答えました。ここで言う「民之义」とは、人間としてやるべきこと、世のため人のためになる行為という意味です。「知」とは知性という意味です。では「鬼神」とは何でしょうか。

日本で鬼^{おに}と言えば、節分でおなじみのように、頭に角をはやし、大きな棍棒を手にした邪悪な化け物というイメージがありますが、鬼(guǐ)という文字はもともと死者を表わす象形文字でした。上の部分が頭蓋骨で、下の部分が折り曲げた足の骨の形を表わしています。これがさらに死者の霊を表わすようになり、この霊が時には生きた人間に祟りをもたらすということから、邪悪なものを表わすようにもなりました。

一方、神(shén)には上から降りてくる人知を超えた力という意味があります。これが天と結びつき天神とも呼ばれます。この力に寄り掛^{かか}るのがいわゆる神頼み^{かみだの}です。

孔子の基本的な考え方からすれば、死者の霊、特に先祖の霊は尊ぶべきものであり、天の神も

敬うべきものです。しかし孔子の生きた時代は、旧来の社会秩序や価値観が崩壊し、各地で戦乱が相次ぎ、民は苦しみ、人心は荒廃し、世上には鬼神を騙^{かた}る無秩序な風俗信仰が蔓延^{まんえん}していました。こうした流れを断ち切り、民を苦しみから救い、あるべき社会の姿を取り戻すにはどうしたらよいか。

これにはまず具体的な行動を起こす必要があります。しかし刑罰や武力による強制は、さらなる混乱をもたらすだけです。孔子の目指したものはこの世に生きる人間の道義心の回復と知性の確立でした。この考えを、各国の君主たちに植え付けること、孔子はさっそくこれを行動に移しましたが、一人ではなかなかうまくいきませんでした。そこで、道義心と知性を備えた優秀な若者を数多く育て上げ、彼らを君主に仕えさせ、君主の持つ本来の機能を回復させること。これが孔子の究極の目標となりました。

この考え方からすれば、無秩序な風俗信仰は邪道ということになります。しかし信仰心そのものを否定することは孔子の本意ではない。そこで、敬して遠ざけることにした、というわけです。ちなみに野球でよく耳にする敬遠の四球はここからきています。強打者は鬼神と同様、敬して遠ざけた方がいい。君子危うきに近寄らず。これも知性の一つでしょうか。

(わりい「中国語で読む漢詩の会」講師)

前回では、楚国の最高長官である昭陽将軍は、その功績により楚王・威王より賜られた「和氏璧」を皆に披露しようと華やかな宴会を催しました。ところがその宴会の最中に天気が急変し、湖水から伝説の金色の大魚が飛び出しました。人々が縁側に出てその様子に見とれている間に、楚国の宝である「和氏璧」が行方不明になりました。



昭陽将軍は激怒し、いら立って、
「会場にいる全員、ひとりひとり身体検査しろ！ 検査で嫌疑の余地のないものだけが会場を出られる」と命令しました。

長い時間を掛けてひとりひとり丁寧に身体検査を進め、会場の人数が減って行き最後に、将軍の門人である張儀一人だけが残りました。

宴会に出席した人々は皆身分の高い豪族や金持ちばかりです。張儀だけが貧しい出身で、身分も低い人でした。将軍は張儀の顔をじっと見つめて、もう検査の必要はない、間違いなくこの人物が盗んだと思い込んだ昭陽将軍は厳しく問い詰めました。

「お前が盗んだのか？ お前は学問もあり才能豊かな人物という名声を得ているのにこのような盗みをするのか!？」

張儀は

「将軍、私は国宝を盗んではいません。私は、生まれが卑しくとも、育ちが貧しくとも、そのような卑劣なことは決してしません!」

「今頃になって何を言うか！ 客の99人は無実がはっきりして帰っていった。残りはお前だけではないか。誰かいるか！ この者を白状するまで鞭で強く打ってくれ!」

二人の兵士が張儀を囲み、太い鞭を高く振り上げて強く張儀を打ち始めました。

張儀は血まみれになりながらも目と唇をしっかりと閉じ、声一つさえも出しませんでした。

昭陽将軍はますます気荒く、

「言え！ 国宝をどこに隠したのか！ まだ言わないか。続けて打て!」

二人の兵士が打ち続けていると、ついに張儀は気を失ってしまいました。

「将軍、これ以上打ち続けたら、この者は死んでしまいます」

「ひとまず、このまま様子を見よう。会場の隅々までもう一度丁寧に調べてみるのだ」

昭陽将軍はいろいろ捜査の手配をして急ぎ都城へ帰りました。

部下たちは長い時間を掛けて建物の中をくまなく探しましたが得るものなく、一方張儀も言葉を発することもできない瀕死の状態でしたので、将軍の部下たちも報告の為都城へ帰りました。

騒ぎが落ち着き、会場を片付けるために老人が来ました。その老人は張儀の様子を見て、まだ生きていると確認すると、水を飲ませたり、傷を手当てしたりした後、馬車で都城の張儀の家まで送りました。

昭陽将軍が落ち着いてよく考えて見れば、張儀は、どうも容疑者らしくないと思われ、張儀を再び責めたりせず、千両の黄金を懸賞金として「和氏璧」の消息を求めました。しかし、「和氏璧」はそのまま行方不明になってしまいました。

張儀は家で受けた傷の療養をして、半年後ようやく動けるようになりました。張儀はもう楚国に滞在したくないと考え、妻を連れて、自分の出身国である魏国へ帰りました。その後、豊かな学識と才能を持つ張儀は昔の先生、鬼谷子の門下で一緒に勉強していた親友の蘇秦の助けによって、秦国に推薦され、その才能を秦王に認められると重用されて最終的に秦国の宰相になりました。

張儀は秦国の宰相になると、楚国の昭陽将軍に手紙を送りました。

「昔、将軍が「和氏璧」を失くした時、私に無実の罪を着せ、私を死ぬ程鞭打った。今私は秦国の宰相になったが、まだ私を疑っているか。それならいつか私

は楚国の城を盗もう。気を付けるがよい。自分の城をよく見守っておれ！」

今や秦という大国の宰相となった張儀の手紙に昭陽将軍は、落ち着かない日々を過ごすのでした。しかも、折も折、楚国の威王が亡くなり、懷王が即位しました。懷王は、張儀の事件を耳にし、昭陽将軍を呼んできつく問い質しました。

「張儀は、才能ある謀略家と世間で知られているではないか。我が国に引き留めておくべきであった。何でこのような逸材を秦国に追い込んでしまったのか。そうでなくとも強大な秦国にこのような人材がいるというのは我が国には脅威でしかない！」

昭陽将軍は国宝をなくし、張儀の威嚇の手紙を読み、また大王の責めもあって鬱鬱と楽しまず、終には病気になり死んでしまいました。

さて、時はさらに40年余り経ちました。

「和氏璧」の披露の宴が開かれた赤城から北、10キロぐらい離れたところに小さな村がありました。この村は赤城の湖に繋がる川のすぐ岸にあります。

ある日の早朝、見たことのない、しかも、とてつもなく大きな魚の死骸が川に浮かんでいるのを村人が見つけました。村民たちは力を合わせてそれを引き上げました。そしてこれ程立派な魚を捨てるのはもったいないと思い、皆で分けて食べようと考えました。ところが解体してみると魚の腹には若い女性の遺体があります。

女性の遺体の皮膚は真っ黒になっていましたが、顔つきや服装に見覚えがあり、

「あれ！これは村の林家の嫁じゃないか！」

「皮膚がこんなに真っ黒になって、毒薬でも飲んだか」

と人々は色々考えました。

実はこの女性は日頃から、姑に虐められ、前夜、つ

いに耐えきれずに自殺しようと毒を飲んで川辺を歩いていましたが、毒が効きはじめ川に転落したのでした。ちょうどその場所辺りで泳いでいた大魚が遺体をまるごと飲み込んでしまったのでした。大魚も女性の毒の効き目で死んでしまいました。

大魚が死んだ原因が分かった人々は、魚を食べることは諦め、深い穴を掘って魚を埋めようとすると、その魚から白い光を放つ美しい石が見つかりました。何だろうとみんなが不思議に思って見とれていると、見物人の中から、旅人姿の老人が口を挟みました。



満柏 画

「それは魚の骨だ。綺麗な骨だね。わしがお金を出すからその骨を売って貰えないだろうか」

実は、その老人は莫存という、楚国の宮廷で玉工をしていました。長年、仕事をして歳も取ったので、それまでに貯めたお金を持って自分の故里である趙国へ帰る途中でした。ちょ

うど村民達が魚を解体しようとしているところを通り掛かり、その様子を楽しく見ていると、なんと村人たちが、美しい光を発する石を見つけました。

老人は「魚の骨だ」と言いましたが、それは決して魚の骨などではなく、まさに消息が絶えて既に40年あまりの「和氏璧」だったのです。幸い、その場では玉に詳しい人間は自分しかいません。老人は即座にこの宝物を自分の国・趙国へ持ち帰ろうと、お金で交換することを提案したのでした。

村民たちは老人が「魚の骨だ」とはっきり言ったので自分たちには無用の物と思い、相談し合って老人に譲り渡しました。

そもそも、「和氏璧」はどうして大魚のお腹になどあったのでしょうか。それでは、あの40年前に赤城で行った盛大な宴会に戻りましょう。

当日の参加者の中に、国の元老であり、皇族の一員でもあった人がいました。その人は嫉妬心が強く、

昭陽將軍が「和氏璧」を賜られたことをずっと不満に思っていました。あの日、「和氏璧」が自分のところまで回ってきた時、ちょうど大魚が湖から飛び出すという奇観に人々は驚いて縁側に駆けつけました。この元老はその騒ぎを利用して、「和氏璧」を自分の袖で隠して窓口からこっそりと大切な国宝を湖に落としました。「和氏璧」は暗いところでは一層綺麗な

光を放つので、あの大魚はその光に吸い寄せられて飲み込んだのでした。

「和氏璧」が大魚のお腹の中でどのくらいの年月を眠っていたのかそこにいた村人たちは誰も知りません。しかし大魚が死んで「和氏璧」は40年ぶりに再び日の目を見、この伝奇物語を続けることができるようになりました。

(続く)

第2回 桜美林大学孔子学院 漢詩朗読・創作発表会を聞いて

有為楠君代 / 崔 貞

◆2015年1月31日、桜美林大学孔子学院主催で第2回漢詩朗読・創作発表会が開催され、「わんりい」会員で、「わんりい」の「中国語で漢詩を読む会」に参加されている高鳥正子さんが出演された。

冒頭、お茶ノ水大学元学長・名誉教授の佐藤保先生が「漢詩のことは一詩語の諸相」と題する講演をされ、普段何気なく使う言葉も詩中では作者の深い思いを表現したり、滲ませたりする。また、鑑賞者も、その言葉に自身の様々な思いを寄せたり作者の思いを感じたり、時には作者以上の解釈を楽しむことがあるとのお話を伺った。漢詩鑑賞の奥行きがまた広がった。

朗読の部では、発表順を決める抽選で高鳥さんが一番を引き当て、真っ先に朗読された。杜甫の「贈衛八處士」^{注)}という長い詩を暗記、堂々たる朗読だった。高鳥さんに続いて、高校生数名を含む参加者18名もそれぞれに表情たっぷり、楽しそうに朗読。中には京劇を習っているという、小学5年生の男の子が京劇風の振りをつけて朗読。催しは楽しい雰囲気で終始した。

一人の大学生は、順番が来た時、座席に仲間がいるようで一際大きな歓声上がる中、本人がニコニコと登壇し、楽しそうに「楓橋夜泊」を朗読した。彼は、中国語は勉強していないが、友達に勧められて出演する気になり、先生に入れて貰った朗読テープを繰り返し聴いて練習したそうだ。朗読会に出演するのを心から楽しんでいるようで、とても好感が持てた。

催しには朗読の他、創作漢詩の部門があり、高校生も含めて6名の方が自作を披露、湘南の四季の風景を詩にした方が創作漢詩の部の一席になった。審査員のお一人だった植田渥雄先生(「わんりい」漢詩の会講師)のお話では、この方の実力はすば抜けて高かったとのことだ。漢詩の創作はまだまだ遠いが、朗読は漢詩の楽しさを知る有効な手段だと感じた。

(有為楠)



創作作品を論評する植田渥雄先生

◆第2回漢詩朗読・創作発表会は、中国人である私にとっても漢詩の発音やその歴史的背景を知り、より深く中国文化を知り、同時に日本文化についての理解を深める機会でした。

終了後の懇親会では漢詩を愛する皆さんと交流し、来年の参加を約束しました。漢詩を通じた交流によって、民族、言語、文化が違って心を通わせられるという確信を得る事が出来ました。時間、空間、世代を超え、異文化をつなぐかけ橋として漢詩を更に勉強し味わってゆきたいと思います。

(崔貞)

注)「贈衛八處士」 杜甫

人生不相見
動如參與商
今夕是何夕
共此燈燭光
少壯能幾時
鬢髮各已蒼
訪舊半為鬼
驚呼熱中腸

焉知二十載
重上君子堂
昔別君未婚
男女忽成行
怡然敬父執
問我來何方
問答未及已
驅兒羅酒漿

夜雨剪春韭
新炊間黃粱
主稱會面難
一舉累十觴
十觴亦不醉
感子故意長
明日隔山嶽
世事兩茫茫

(古い友人・衛八處士との二十年ぶりの再会の喜び。しかし別れを考えると盃を重ねても酔えない…。ネット検索できる方は「贈衛八處士」で検索してみてください)

薪を抱きて火を救う

私の調べた諺・慣用句 37

三澤 統

世間には、良かれと思って行なった行為が対処の仕方を誤ったために逆効果となり、却って傷口を大きくしてしまうようなことが往々にして有るものです。

そのような状況を言い表す慣用句に「薪を抱いて火を救う」があります。

辞書ではそれぞれ次のように載っています。

▲小学館 デジタル大辞典：

「薪を抱きて火を救う 薪を抱いて、火を消そうと火元に近づく。害を除こうとして、かえって害を大きくすることのたとえ」

▲小学館 日中辞典：

「抱薪救火 bào xīn jiù huǒ 薪を抱えて火災を消しに行く。(方法を誤っているために) 災いを除こうとして、かえってそれを大きくする」

この成語の出自は〈史記注〉・魏世家〉です。

戦国の末期、秦国は魏国に対して立て続けに大規模な侵攻を行ないました。魏は抵抗することなく広い土地を秦軍に占領されてしまいました。

紀元前273年になって、秦国はもう一度魏国に出兵し、その勢いは空前のすさまじさでした。魏王は大臣たちを集め、苦渋に満ちた表情で大臣たちに秦国の兵を引かせる方法は無いものか尋ねました。

大臣たちは多年の戦乱を経験してきたので恐ろしくて誰も敢えて戦おうとは言えませんでした。そこで、この大軍が押し寄せ危急の時にあって、多くの大臣たちは皆魏王に、黄河以北と太行山以南の広い土地を代償として差し出すことで、秦王に講和を求めることを進言しました。

一方、策士の蘇代はこの話を聞くと、それは間違

っていると思い、あわてて前に進み出ると、魏王に言いました。

「大王、大臣たちは意気地なしで死ぬのが怖いのですよ。あなたに国を売って和を求めて欲しいと言っているだけで、もともと国のためを思っているではありません。考えて下さい、広い土地を分割して秦国に渡したら、一時は秦王の野心を満足させられるでしょう。しかし、秦国の野望は止まるところがないですから、魏国の土地全部の切り割りが終わるまで、秦軍は我々への侵攻は止めないでしょう」

ここまで言うと蘇代は次のような一つの物語を話しました。

「以前、ある男がいて、その者の家が火事になったときのことです、周囲の者が彼に早く水をかけて火を消すように勧めたが彼は聞かず、逆に一束の柴草を抱えて火を消しに行ったのです。彼は柴草で火を

消せるところか却って火の勢いを助長することが分らなかったのです。大王がもし魏国の土地を用いて秦国と和解をしようとするなら、柴草を抱えて火を消すことと、変わらないのではありませんか？」

蘇代の説得は筋道が通っていたのですが、肝の小さい魏王は目の前の太平の維持に気を配るばかりで、結局大臣たちの意見に従って魏国の広い土地を分割して秦国に与えてしまいました。

紀元前225年になって案の定、秦軍が再び大挙して押し寄せてきました。魏の都の代梁を包囲し、黄河の大堤を破壊して大洪水を起こし、大梁城を水没させました。そしてとうとう魏国は秦国に滅ぼされてしまいました。

紀元前225年になって案の定、秦軍が再び大挙して押し寄せてきました。魏の都の代梁を包囲し、黄河の大堤を破壊して大洪水を起こし、大梁城を水没させました。そしてとうとう魏国は秦国に滅ぼされてしまいました。

〈注記〉

『史記』(しき)は、中国前漢の武帝の時代に司馬遷によって編纂された中国の歴史書である。正史の第一に数えられる。二十四史のひとつ。



イラスト 満 柏

今年(2015年)の1月25日、桜美林大学孔子学院で開かれた「日中口述歴史文化研究会」主催の懇話会に参加した。

この会の案内書には、「禹王遺跡」についての講演があると記されていたのでこれは是非とも聞いてみたいと思い出席した次第である。講師は、「日本と中国の禹王遺跡行脚研究家」であり、「足柄の歴史再発見クラブ」の顧問でもある、大脇良夫氏である。氏は、知る人ぞ知る禹王の顕彰碑のある神奈川県の開成町にお住まいの方である。私はこの顕彰碑は、数年前に全国紙の夕刊に投稿された法政大学の王敏教授の書かれた文章の中にある写真で知り、さっそく切り取ってスクラップブックに貼り付けた。おおよその場所は分かるので、いつの日か機会を見つけて行って見ようと思いつつ今日まで来てしまった。そのような次第で参加したのである。

「禹王」は中国に関心のある方ならご存知の方も多いと思うが、中国最古の「夏王朝」の始祖である。夏王朝は、紀元前21世紀頃～紀元前16世紀頃とされており、「史記」によれば初代の禹から末代の桀まで17代で470年余り続いたと記されている。中国の歴史は、神話と伝説の時代を除けば「夏」から「商(殷)」、「周」と変遷し、春秋時代を経て紀元前221年に秦の始皇帝による国内統一となるのはご承知のとおりである。「夏王朝」は以前は伝説の範疇であったが、考古学の進歩などで今は実在の王朝と認識されてきたようである。

黄河中流域は、世界四大文明発祥の地として名高いが、しばしば氾濫し住居や人々に甚大な被害を



禹王碑の軸装 ㊦ 1919年建立・群馬県沼田市利根町坪川の禹王碑 ㊧ 年代不詳・中国・西安碑林博物館蔵「重刻峽嶺禹文碑之一」 ㊨ 1666年建立・中国西安碑林博物館「禹碑」
(いずれも大脇良夫氏所蔵)

もたらしていた。統治者にはこの暴れ川を治めることが求められたのである。そしてついに禹が治水に成功し、夏王朝を興し初代皇帝になったと言われる。彼は、「治水の神」と崇められ、私は一か所も

見たことはないが中国各地にその遺跡があるようだ。中国と一衣帯水に位置する日本にも、遣隋使や遣唐使等を通じて禹の治水の功績は伝えられたであろう。古事記や日本書紀にも禹王のことが書かれているというから驚きであるし、日本と中国の関係の深さに思いを深くする。両国は未来永劫に仲良くしていかなければならないという思いを強くする。

治水対策と言えば、日本と中国にすぐ思い起されるところがある。人によっていろいろであろうが、私が思い起こすのは日本では武田信玄が築いたといわれる「信玄堤」である。これは、山梨県甲斐市にある堤防である。甲府盆地



三門峽ダムの大禹像

を流れる「釜無川（かまなしがわ）」は昔から大雨による水害がしょっちゅう発生した。特に御勅使川（みだいがわ）が流れ込む釜無川の合流部分は水害が多かった。信玄は合流地点である竜王に堤防を築き、御勅使川の流路を北に移し釜無川の流路を移すという工事を20年以上の年月をかけ続けたという。その結果、洪水は殆どなくなり農業生産も上がったようだ。家内の実家が荏崎市ということもあり、このあたりはよく車で通ったことでなじみがある。なお、この釜無川は笛吹川と合流して富士川と名前を変え、駿河湾に流れ注いでいる。

中国では、四川省成都市郊外の「都江堰」（2000年に世界遺産登録）が頭に浮かぶ。この堰は、李という名の親子が苦難の末造り上げた堤である。つまり禹によるものではない。このあたりには岷江という河川が流れており、大昔から氾濫により農民を苦しめ続けていた。この河川をどのように治めたかという、大河を外江と内江に分離し洪水により内江が一定量を超えると溢れた水を外江に流すようにした「飛沙堰」をつくり、また灌漑用の水門を造るなどした。私は、2012年に現地を見たが、人間が造ったとはとても思えない規模の大きさに驚き、かつ如何に難工事であったかを想像してみた。土地の人はその功績により二人を神様（王）として扱い、都江堰が見下ろせる丘の中腹に「二王廟」を建立した。ちなみに2008年の四川大地震で建物は倒壊したそうであるが、私が行ったときは立派に再建されていた。

では禹はどのような治水事業を行ったのであろうか。なにしろ今から4千年も前のことであるから、神話の世界であるが、前述の大脇さんを中心に



河南省鄭州市の黄河遊覧区に立つ巨大な禹王像

長年研究された結晶である「治水神・禹王研究会誌」（以下会誌という）にすこし書かれている。その部分を抜粋すると下記のように書かれている。

「中国の神話では、禹は頻発する黄河流域の洪水を治めるため、山野を開き湖を浚渫するなど、13年をかけて各地で治水工事を行ったとされています。」（海津市歴史民俗資料館学芸員・水谷容子氏）

ところで日本では禹王遺跡がどのくらいあるのであろうか。会誌によれば、今後、掲載予定の遺跡を含めると北海道から沖縄県まで100か所近く

ある。その内容は記念碑、廟、掛軸などいろいろだがこのうち石碑は会誌で確認できるもので約50か所ある。これは庶民が治水の神のご加護を願った証である。また、日本各地で如何に水害に悩まされて来たかの証左でもある。

大脇さんは、「日本全国にはまだいくつも記念碑があるはずだ」と言われていたが、この文章を読まれて「自分の故郷で禹〇〇という石碑を見たことがある」と思われる方は是非大脇さんにご一報いただければ幸いである。では本場の中国ではどのくらいあるのであろうか。答えは「数えきれないくらいある」である。

そのなかでいくつか代表的なものを、会誌からご紹介したい。もちろん私は講演と会誌を見るまでは殆ど何も知らなかった。河南省に「禹州市」という街がある。市名をみただけで禹王と関係がありそうだ。この街は省都の鄭州の南に位置している。黄河からも近い。ここには禹王廟、禹王碑、禹王像などがあるそうで禹のテーマパークと言えるくらい禹一色と書かれている。さらには禹州市から洛陽に向かう途中に「登封市」という名の街がある。ここ



毎年5月5日は文命*)祭。文命西堤にて。2014年5月5日祭事前の様子。㊦文命西堤碑、㊦文命宮、ともに1726年建立。 [*文命(ぶんめい)：禹王の名]

には太室山と少室山が厳しく聳え立ち、山麓の傾斜地に方形の市街地が拡がりあたかも京都を彷彿させる街だそうだ。禹は塗山氏の娘を娶り啓という皇子をなしたが、この母を称えた啓母廟史跡があるそうで、そこにたくさんの遺跡があるらしい。この街の西方約4kmのところにある「左庄村」は禹王の生誕地との伝説がある。

次はガイドブックからのものであるが、二つ紹介したい。まず紹興市には、「大禹陵風景区」があり、禹陵、禹祠、禹廟の3つの建物がある。つまり禹のお墓であるが、これとて伝承の域を出ないようだが有名な観光スポットである。もう一つは武漢市にある「晴川閣」である。この楼閣は長江の川岸にあり、川を挟んで黄鶴楼と対面しているが、夏王朝を築いた禹を称えるために16世紀、明の時代に建てられ



さかわがわ 酒匂川*) 右岸(福澤神社境内)の文命遺跡群。左から、奉建文命社御宝前塔(1807年建立)、堤記、文命宮、文命東堤碑(3碑とも1726年建立)、文命用水碑(1936年建立)。白い、生け垣の向こうに酒匂川が走る。

*)神奈川県西部を流れ、小田原市の東で相模湾に注ぐ。

た。古代から長江の氾濫に悩まされてきた農民の気持ちの表れであろう。晴川閣の名前は、盛唐の詩人・崔顥(生年不詳～754年)の有名な漢詩「黄鶴楼」注の一節「晴川歴歴漢陽樹」からとったものである。



まだまだあげればキリがないであろう。日本と比べれば中国の遺跡は質、量とも遥かに凌駕しているがそれは致し方ない。それでも禹の功績が日本に伝わったことは、まことに喜ばしいことであるし、それを研究されている方が大勢いらっしゃるのも嬉しいことである。会誌に書かれているが遺跡は台湾や朝鮮半島にもあるらしい。本研究会は、2010年から日本各地で「全国禹王サミット」と称して毎年研究の成果を発表されたり、中国との交流を重ねておられると聞く。

会誌の中で「足柄の歴史再発見クラブ」の関口さんが、「この活動が日本と中国だけでなく東アジアを分母とする壮大な共同研究に発展することを願うとともに、日中間に依然として横たわる深い溝を埋める貴重な架け橋となることを確信している。」と書かれてる。まったく同感である。この研究会が一層成果を上げられ、東アジア諸国の友好に貢献されることを祈念しつつ、筆を置きたい。

(本稿の写真はすべて大脇良夫氏撮影)

注)

黄鶴楼

崔顥

昔人已乘白雲去，此地空餘黃鶴樓。
黃鶴一去不復返，白雲千載空悠悠。
晴川歴歴漢陽樹，芳草萋萋鸚鵡洲。
日暮鄉關何處是，煙波江上使人愁。

黄鶴楼

昔人 已に白雲に乗りて去り、
此の地 空しく余す 黄鶴楼。
黄鶴一たび去って復た返らず、
白雲 千載 空しく悠悠。
晴川歴歴たり 漢陽の樹、
芳草萋萋たり 鸚鵡洲。
日暮 郷関 何れの処か是なる、
煙波 江上 人をして愁えしむ。

講座にて中国の歌

鄧さん、頑張る・日本探検記 20

鄧仁有

今年度の中国講座も残りわずかになってきました。第15回目の講座は「中国語で歌おう」というテーマで学習しました。当初、中国でも有名な自分も歌える「北国の春」を歌うことしか考えていませんでした。しかし、日程が迫ってきて受講生の皆さんにどんな曲がいいのか訊いたところ、「本場の中国の歌はどうでしょうか」との意見がありました。私自身もそれは良い考えだと思いましたが、手元には中国の歌のテープなどを持っていないので困っていたところ

ろ、熱心な受講生のひとりが中国のCD5～6枚を貸してくれました。その中にテレサ・テンや以前流行った歌がいっぱい入っていました。皆さんがこんなに中国の歌が好きでこんなに沢山持っているとは思いませんでした。それらのCDはすべて中国へ旅行したとき、直接購入したそうです。多くの歌の中から今度はどれを選んだらよいのか、またもや悩んでいました。よく見ると、中国の有名な張也歌手の「化蝶」という歌が入っていました。これは中国の代表的な歌謡

で、この歌の曲にしても、歌詞の内容にしても中国では知らない人はほとんどいないほど有名な歌で、最終的にはこの歌を歌うことになりました。

この歌の特別なところでは「梁祝」という有名な協奏曲を使っています。「梁祝」とは梁山伯と祝英台の二人の名前の略称です。私の中国の家にもピアノ協奏曲のCDがあり、その中にも「梁祝」という

中国の一曲が入っています。どなたが弾いた協奏曲かということ中国語で「理查德・克莱德曼」と書いて見せたら、事務室の皆さんは首をかしげましたが、私が中国語で言うと皆さんやっと分かりました。日本語では「リチャード・クレグダーマン」のことです。同じ人名でも国によって表記の仕方が違いますね。

この梁山伯と祝英台はいったいどんな人物だったのでしょうか？ それについては有名な愛情故事がありますよ。この故事は牽牛織女伝説、白蛇伝、孟姜女とともに四大故事の一つに数えられ、中国のロミオとジュリエットとも言われる物語です。1954年に「梁山伯与祝英台」という映画まで作成し、翌年の55年日本でも上映されたそうです。もちろん私は当時の映画を見ることは出来ませんでした。皆さんは見ましたか？



映画「梁山伯与祝英台(1954年)」の国際版ポスター。このほか1963年制作もある(中国ネット「百度」より転載)。編集部歌は、<http://my.tv.sohu.com/us/63261420/20914291.shtml>

この歌をよく理解するために、事前に物語や歌詞について資料を作成し、貸してくれたCDを再三聞きました。カラオケのように大きい声を出してよく練習もしました。本番の講座の時に歌詞に関するストーリーについて皆さんに紹介しました。短時間だけれど皆さんは一生懸命に聞いてくれて、発音練習のため繰り返し歌いました。

歌を歌うことも外国語を覚える一つのいい方法だと思います。私自身もこの歌の講座のために資料を調べたり、CDを聞いたりして、大変勉強になりました。

もうすぐ春です。皆さん、風邪を引かないよう気をつけてください。

「鄧さん頑張る・日本探検記」は、2004年(平成16年)から2006年(平成18年)の2年間、青森県六戸町の国際交流員として国際友好活動にかかわった、中国山西省太原市に住む一中国人・鄧仁有さんの日本体験です。文章は原文のままです。

私にとっての「戦後七十年」

陽光新聞社・顧問
塩澤宏宣

今年一番大きなテーマは「戦後70年」ではないでしょうか。政府による談話については世界中が注目しているようです。私個人としては、あまり波風を立てるような談話にならないよう願っています。さて、私にとっての戦後、それは人生の軌跡と考えています。

昭和15年8月25日に生まれた私は、20年8月15日は満5歳でした。3月10日の東京大空襲を体験し、父の生家がある長野県赤穂（現駒ヶ根市）へ疎開しました。母とその父、そして私の3人でした。

た。東京の家には母の母と姉が残りました。

❖ ポツダム宣言受諾・終戦 ❖

8月15日は快晴でした。酒屋を営んでいた父の兄を初め家族が皆広間で正座して、玉音放送を聴きました。その意味はまったくわかりませんでした。静寂がしばらく続いていたことはよく覚えています。

21年春、私を幼稚園へ入れるため帰京しました。板橋区（現練馬区）にあった東京の家は、幸いなことに被災せず残っていました。しばらくは焼け出されたり、満州から引き上げてきた母の兄弟が避難していました。大家族で賑やかでした。

❖ 新憲法が施行 ❖

22年4月、小学校へ入学。同年5月3日に新憲法が発効しました。教育制度も変わりました。国民学校は小学校に、男女共学、義務教育は「小6・中3」の9年間になりました。PTAもできました。学校給食では母も手伝いに度々出向きました。

終戦後2年たって新生日本が歩み始めたころの小生活でした。私が通学した学校は国立大学の付属でしたからGHQの指導が強く、「民主主義と自由と権利」についてはかなりしつこく教えられたような

気がします。それだけにこのたびのフランスにおける「表現の自由」をきっかけとしたテロ事件は考えさせられます。フランス革命で「自由・平等・友愛（博愛）」を勝ち取った人民にとっては大切な「自由」ですが、自由の範囲には「理性」が必要なのではないでしょうか。といって暴力で否定することは、たとえ宗教の違いがあっても許されることではありません。

❖ 講和条約締結 ❖

昭和26年9月のある日、全校生徒が講堂に集められました。校長先生より「今日から日本は再び独立国として認められた」と説明がありました。「これからは日の丸の掲揚も君が代の斉唱もできる」ともいわれた記憶があります。

後で知ったことですが、講和条約は52カ国が参加しました。そのうちのセイロン（現スリランカ）のジャヤワルデネ代表（後の大統領）の演説に感銘しました。「憎悪は憎悪によって取り除かれない。愛によってこそ取り除かれる」と述べ、賠償を求めないで「日本には友情の手を差し伸べる」と述べてくれました。

❖ 国際連合に加盟 ❖

昭和31年12月18日日本は80番目の国として、国連に加盟が認められました。同年10月に日ソ共同宣言が発行した結果、ソ連も加盟に賛成したからです。これで日本も一人前になったと感慨深い思いをしました。

この年、私は高校1年。終戦後ソ連に抑留されていた父が帰国しました。戦後10年経って突然オヤジが天から降ってきたような思いがしました。加えて翌年5月には母が亡くなりました。人生最大の悲しい経験でした。それ以来、勉強を放棄してしまいました。成績が悪くても周囲が同情してくれるのをいいことにして…いささか反省していますが。

国連加盟国は現在、193カ国あるそうです。世界にはそんなにたくさん国があるのかといささか驚きです。第2次世界大戦の戦勝国が「常任理事国」とやらで、権力を握っているようですが、拠出金はアメリカに次いで日本は第2位です。平和のためなら致し

方ないと思うしかないのでしょうか。国連はニューヨークの国連ビルのように疲労しているのでは。

❖ 東京オリンピック開催 ❖

昭和39年10月10日前夜の雨が嘘のように快晴で迎えたオリンピックは、戦後の日本と決別するイベントでした。当時原宿でアルバイトをしていましたが、真上の空に自衛隊機が五輪マークを描くのをビルの屋上から見ました。感動しました。

私は二浪していましたので翌40年に就職することになっていました。戦後の経済復興は右肩上がりということで、オリンピック景気はその頂点だといわれていました。40年はその反動で不況でした。就職先は内定していましたが、「不況で採用取消」などという記事が乱れ飛んでいましたので、一応心配しましたが無事採用され、社会人になりました。

5年後に2度目の東京オリンピックが開催されます。半世紀ぶりです。前回のときは「オリンピック成功」が錦の御旗で東京の開発が進みましたが、今回は控えめにするようですから、国威発揚とはならないでしょう。古代オリンピックは「全ての戦いを休止してスポーツと芸術に勤しむ」という精神を見直す雰囲気が出ればいいのですが。オリンピックを国威発揚に利用したのはヒトラーです。あくまでも「平和の祭典」に戻すよう期待します。

❖ 石油ショック ❖

その発端は第4次中東戦争です。昭和48年と54年の2度も起きました。あと40年で石油は枯渇するなど脅かされました。戦後アメリカの政策でエネルギーを石炭から石油に転換させられていた日本は、七転八倒の苦しみを味わったのです。しかし結果的には、国民の「省エネ」志向が強まり、公害も減少するといういい結果も得ることができました。更に、当時は輸出絶好調で米ドルが溢れていましたが、石油ショックでドルがアメリカに還流し、文句を言われなくなったというオマケができました。ひょっとすると、石油ショックはドルを垂れ流したアメリカが仕組んだことではないか？と思っています。

地球温暖化による「異常気候」を放置して、世界は

宗教や民族間の争いごとにかまけています。一方でシェールオイルやガスが開発され、かつての「石油枯渇」の脅しが消えてしまいました。アメリカなどは大型自動車の人気が復活して来ました。石油ショックから40年、その貴重な体験から得た教訓を忘れてしまったのでしょうか。

戦後70年を経て、歴史や経験から学んだ尊い知恵を生かさなければ、先人たちの苦勞は報われません。これから数々の経験を語り合い、「次の世代を担う人たち」に語り継ぐのが私たちの役目だと考える今日この頃です。

使用済み古切手と書き損じの葉書でご支援を！

日本スリランカ文化交流協会では、スリランカへの教育支援の為、古切手と書き損じ葉書を集めています。古切手は周囲を1cmほどを残して切り取り、おついで折に田井にお渡し下さい。

‘わんりい’は、毎年4月から新年度になります。ご継続をよろしくお願いします。尚、新年度の会費の納入は、3月一杯にお願いできれば有難いです。また、新入会を歓迎します。

年会費：1500円 入会金なし
郵便局振替口座：0180-5-134011 ‘わんりい’

‘わんりい’の名は、‘万里’の中国読みから付けられました。文化は万里につながるの想いからです。

主としてアジア各地から日本に見えている方々と協力し、講座、研究会、鑑賞会、展覧会等を開催し文化的交流を通して国や民族を超えた友好を深めたいと願っています。

①年10回(2月・8月を除く)おたよりをお送りします。

②‘わんりい’の活動の全てに参加できます。

問合せ：042-734-5100(事務局)

◆インターネット会員の制度もあります。アドレスを頂いた方に、毎月、カラーの美しい‘わんりい’をPDFファイルでお送りします。こちらは無料です。

◆町田各所でご自由に取って頂けます。上記へお問い合わせください。

詩人^{いん せ りん}尹世霖の童詩の世界⑩

金子總子・訳

我 和 孩 子

一

zài hé páng zāi yī xíng xì liǔ
在河旁栽一行细柳，
bǎ liǔ yīn liú gěi hòu dài
把柳荫留给后代；
zài chūn tiān sǎ yī bǎ zhǒng zǐ
在春天撒一把种子，
bǎ shōu huò liú gěi qiū tiān
把收获留给秋天；
wéi qiān qiān wàn wàn gè hái zi
为千千万万个孩子，
wǒ yuàn bǎ xīn xuè fèng xiàn
我愿把心血奉献。

二

wǒ de shī shì yī lǚ chūn fēng
我的诗是一缕春风，
qīng fú hái zi hóng rùn de xiào liǎn
轻拂孩子红润的笑脸；
wǒ de shī shì yī zhī liǔ shào
我的诗是一只柳哨，
tiǎo dòng hái zi huàn xiǎng de xīn xián
挑动孩子幻想的心弦；
wǒ de shī shì yī lì zhǒng zǐ
我的诗是一粒种子，
diū jìn hái zi chún zhēn de xīn tián
丢进孩子纯真的心田。

三

xiě dì yī shǒu shī shí
写第一首诗时，
wǒ shì yī gè shào nián
我是一个少年；
jiāng lái xiě zuì hòu yī shǒu shī
将来写最后一首诗，
réng yào pěng chū tóng zhēn yī piàn
仍要捧出童贞一片。
wǒ shì shī de hái zi
我是诗的孩子，
shì hái zi de shī piān
是孩子的诗篇。

わたしとこども

一

川のほとりにずらりと小さな柳をうえた
柳の木陰を後の世代に残すのだ
春にひとつかみの種を蒔けば
秋には収穫が残るのだ
幾千万の子どものために
わたしは心血をささげたい

二

わたしの詩はひとそよぎの春風
こどもつやつやとした明るい笑顔を
そっとなでる
わたしの詩は一つの柳の木の葉笛
こどもの幻想的な心の弦をかき鳴らす
わたしの詩はひとつぶの種
こどもの純真な心の田に落ち込んでいく

三

わたしがはじめて詩を書いた時
わたしはひとりの少年だった
いまに最後の詩を書く時
やはりこどもの清い心を守って詩を書きたい
わたしは詩の子ども
その詩は子どもの詩



「翻訳勉強会」(仮称)始めます！ 関心のある方、お問い合わせをお待ちしています

昨年末、雲南省昭通市魯甸県大地震義捐金を「認定NPO法人・日本雲南聯誼協会」^{注)}に届けた際、‘わんりい’の活動の一環として、聯誼協会に手伝えることがあればと申し出たところ、「手紙の翻訳ボランティアの手伝いが欲しい。協力いただければ有難い」とのことでした。

実は、聯誼協会が特に力を入れて活動しているのは、里親制度による雲南省少数民族の子女への教育支援で、里親の支援を受けている学生・生徒から里親宛の手紙が年3回ほど、どっと届き、その翻訳に人手が足りないのだそうです。

その後早速、聯誼協会から翻訳の依頼が舞い込み、‘わんりい’中国語勉強会のメンバーに声を掛けるところ、7名が手を挙げてくださり、早速動き出しました。今回は、昆明の大学で日本語を勉強している現地大学生が訳したものをチェックした分も含めて、49人分の手紙・年賀状、総計82ファイルを完成させました。

現地の高校生の手紙文ですので中国語そのものは余り難しくありませんが、今回の経験から手紙として、書いた人の思いを伝える日本語表現が難しいと感じました。書いた子供達の思いは同じでも、表現はいろいろです。表現の違いを生かしながら、その気持ちを日本語でどう伝えるか、独りであれこれ考えるよりも、皆で検討できるほうが、翻訳の質も上がり、メンバーの勉強になるのではないかと考え、そのために、メールが全員に届くネット上のサークルを作り、「翻訳勉強会」(仮称)として、正式には4月から活動を始めたいと思います。

最初は、聯誼協会から届く雲南の学生たちの手紙翻訳から始め、ゆくゆくは中国語の絵本や短いエッセイなどを日本語に、更に進んでは日本語の絵本を中国語にするなど、皆で知恵を出し合いながら翻訳してみたいと思います。

中国語学習者は、教科書の課文を訳すのとは違った楽しさや難しさを味わえると思います。中国人の方々や留学生の皆さんにとっても、日常的な日本語

を学ぶよい機会になるかと思います。指導者のいないサークルですがお互いに相談し合い、力不足を補い合って力をつけて行ければよいかと思っています。

原則、メール上での活動を考えておりますが、出来れば4月に一度顔合わせの会合を持ち、その後は、2、3ヶ月に一度程度、親睦を兼ねて集まり、相談しながら活動したいと考えています。

第一回目会合の場所・時間は、決まり次第、連絡頂いた方にお知らせします。又、4月号‘わんりい’でも場所・時間を明記して呼び掛けをしたいと思います。どうぞ皆様、奮ってご参加ください。

注) 認定 NPO 法人 日本雲南聯誼協会：
<http://www.jyfa.org/>

《 問 合 せ 》

☎：090-4422-1374 (有為楠^{ういくす})

E-mail : ukiuki65jpjp@yahoo.co.jp

※念のため、E-mail cc 欄に、
wanli@jcom.home.ne.jp を入れて下さい。

◆ 3 月中にご連絡を頂けると嬉しいです。

町田中国語講座 (毎月第1、第2、第4土曜日)

- 会場：まちだ中央公民館、町田市民フォーラム、まちだ文学館などの町田周辺の市の施設
- 講師：郁 唯 先生 (天津師範大学卒業)
※見学ご希望の方は事前に下記へご連絡ください。
- 午前クラス 10:15～12:15
 - ◆ 会費：月謝：3か月 10,000円
 - ◆ 対象：初心者の方も大歓迎
 - ◆ 問合せ：☎ 042-725-3963 (森川)
E-mail : ymorikawan@ybb.ne.jp
- 午後クラス 14:00～16:00
 - ◆ 会費：月謝：4,000円/月
 - ◆ 対象：ピンインの分かる方
 - ◆ 問合せ：☎ 090-1425-0472 (寺西)
E-mail : t_taizan@yahoo.co.jp

午前クラスも午後クラスもアットホームな雰囲気できれい
和気あいあいと楽しく学んでいます。

女王谷の文化を残す丹巴風情保護区（中国政府から UNESCOへ世界文化遺産申請中）の町はこの10数年で大きく変わり、くすんだ街並みから色鮮やかな街並みに変わり、綺麗な現代的な商店が軒を並べるようになりました。その背景には、丹巴の人達の経済水準が上がると共に町に常時住む人（郷村部と外部からの移住者）が増えた事があるようです。そして春節の間も町に滞在する人が随分増えました（10数年前の春節時期には殆どの人が郊外の村々に在る実家へ戻り、町はゴーストタウン状態でした）。

春節前は丹巴の町の通りに色々な物を並べた露店が所狭しと出現して、年越しの品々を買い出しに来る人達で賑わいます。添付写真をご参照下さい。郊外の村々から買い出しに来る人達はギャロンチベット族だけでなく、カムやアムト^注の系統のチベット族も沢山いて、様々な服装や髪形や装飾を通りで見掛けます。また春節を故郷で迎えるために帰省した若い人達（特に綺麗な女性）が増えて、通りは華やぎます。町の通りでは買い出しに来た人達が久し振りに顔を合わせて談義する姿が彼方此方で見られます。通りの人出は春節3～4日前がピークです。



丹巴の町の銀座通りと言える「歩行街」の賑わい。町中の人通りが多い場所に露店が並びます。



春節のお菓子として最もポピュラーな、小麦粉を水で練って油で揚げたもの。色や形や味は様々です。



花火売りの子供。春節前は商売が忙しくて子供達も手伝いに駆り出されます。花火は春節前夜 24 時にビルの屋上や通りから一斉に打上げられ、町は爆発音と硝煙に包まれます。



小麦粉を水で練って油で揚げたお菓子として最も伝統的なものの一つ。



流行りの音楽 DVD や CD を買うラマさん達。世俗世界との行き来が増え、金回りも良くなった結果です。



伝統的な装飾品の珊瑚玉（殆どはプラスチック製）や帽子や付け髪を売る露店。



当地で「藏歴」と呼ばれるチベット歴のカレンダー。



生活に欠かせないバターを売る露店。バターは本来ヤクの乳から作りますが、価格が高騰するに連れて混ぜ物が増えています。

●大川さんのホームページはこちら

女王谷 : <http://rgyalmorong.info/>

四姑娘山 : <http://rgyalmorong.info/scholaweb/conts.htm>

筆者注 : カムやアムド

カムはチベットの東部地方を指し、文化的中心地は甘孜州(丹巴県が含まれます)の北部に在る徳格県や甘孜県辺りです。住民はカムパと呼ばれます。丹巴県の西部や南西部ではカムパの言葉が多く使われています。

アムドはチベットの東北部地方を指し、青海省や周辺の広い地域が含まれます。丹巴県や周辺地域の標高の高い場所(約4000m以上)でもアムドの人達は集落を作りヤクを放牧しています。

お知らせ :

女王谷のHP (<http://rgyalmorong.info/>) に、当地の風情を紹介するサンプルビデオ (MP4形式8MB前後) 1分余り×15本を追加しました。日本語HPに入って頂いて、先頭頁の左下に有る「風情のあるビデオ (<http://rgyalmorong.info/scholaweb/queenvideo-j.htm>)」でご覧になれます。光回線ならほんの数秒で動画が始まるでしょう。

フィリピン滞在記 ③---マニラのチャイナタウンを歩く

為我井輝忠

世界中、大都市と言われるところにはチャイナタウン(中華街)がある。ニューヨーク然り、ロンドン然り、パリも、否、ジャカルタ、クワラルンプール、横浜と例を挙げればきりが無いほどである。かつて訪れたことがある南太平洋のフィジーにも小規模ながら中国人のコミュニティがあった。なぜこんなにも世界中にチャイナタウンがあるのか不思議に思うが、それは歴史的に見れば、大いに肯くことが出来る。

19世紀末から中国は欧米諸国の進出によって半ば植民地化され、それと共にそれまで海外に出ることが出来なかった中国の人々が労働力として欧米諸国を始めアジアのその列国の植民地に駆り出された。その結果中国人は世界のあらゆるところに住み始め、やがてそこに自分たちのコミュニティを作り上げた。次第に

そこに一つの街が出来、チャイナタウンが形成されてきた。彼らにとって頼れるものは同胞だけであった。



王彬のフィリピン独立に大きな役割を果たしたことを記念した銅像

フィリピンの場合もマニラに大きなチャイナタウンがある。先日初めて訪れてみたが、他のチャイナタウンとは若干違うような気がした。それはロンドンや横浜のチャイナタウンが半ば観光地化し、観光客が多く訪れる人気スポットになっているのに対して、マニラの場合はあまり観光客の姿は見え、地元の人々の姿しか見かけなかったことである。あまり華やかさや活況が見られない。それは生活密着型チャイナタウンとでも言

ってよいのではないだろうか。

スペイン統治時代、スペイン人はイントラムロスという城塞を中心に都市(城塞都市)を築き、中国人はその中に住むことが出来なかった。しかし、彼らは商売を続けるためにイントラムロス近くに集って住むようになり、これがチャイナタウンのそもそもの始まりであった。

チャイナタウンを歩いていると、Ongpin(王彬)と書かれた文字をしばしば目にする。通りの名前(Ongpin Street)だったり、商店(Ongpin Market)や場所の名前などに使われていたりとかかなり多い。一体この人物はどんな中国人だったのだろうか。大いに興味を感じた。

チャイナタウンの一角に「比律嬭独立先賢 王



Ongpin St.(王彬通り)と書かれた道路標識



チャイナタウンではお馴染みの牌楼



チャイナタウンでの昼食



商売そっちのけで眠りこける男性

彬先生記念像」と書かれた彼の銅像が建っている。初めて目にした名前であるが、フィリピンの独立に寄与したとあり、大いに興味を覚えた。インターネットで調べてみると、あまり詳しいことが出ていない。せいぜい生まれたのが1847年、没したのが1912年で、正式なフィリピン名は Don Roman Ongpin (ドン・ローマン・オンピン) とあり、“a Chinese businessman who gained fame for his financial support for the rebels during the successful uprising of 1896 against Spain” (1896年スペインに対する反乱期に反徒に対して経済的な支援を続け広くその名声振りが知られた中国人ビジネスマン) ということが書かれている程度である。しかしながら、フィリピンではスペインからの独立時に果たした彼のことや彼の家族については

よく知られていて、彼の功績を讃えるために銅像（比律嬪独立先賢 王彬先生紀念碑）が建てられたり、街の名称に彼の名前が付けられたりしたのである。

一方、チャイナタウンは日本が爆撃を加えたことも知られている。太平洋戦争時に日本軍がマニラを砲撃した際、このチャイナタウンも大きな被害を受けたそうであるが、今はそのような傷跡は見られない。ただ街の一角に「華僑抗日烈士記念碑」があり、当時の在比の中国人青年たちの抗日の様子をわずかに知ることが出来る。

中国の旧正月を祝う春節が今年は2月19日から始まったが、フィリピンではこの日は祭日で休みであった。それで私はぜひともこの日にはチャイナタウンに行って、中国風の正月風景を見てみたいと考えていたので、訪れてみた。その時の詳しい様子は次回に報告したい。 (続く)

【‘わんりい’の原稿を募集しています】

‘わんりい’は、2月と8月を除く毎月発行の当会の会報です。主として、会員と会の関係者の皆さんの原稿でまとめられています。海外旅行で体験された楽しい話、アジア各地の情報やアジア各地で見聞した面白い話などを気軽にお寄せ下さい。又‘わんりい’の活動についてのご希望やご意見及び‘わんりい’に掲載の記事などについても、簡単なお感想をお寄せいただければと存じます。

日中文化交流市民サークル ‘わんりい’

スリランカ・カレーよもやま話—その2

赤岡健一郎 (日本スリランカ武道協会
日本スリランカ文化交流協会)

前回の最後に、日本で初めてカレーを食べたのは福沢諭吉という説がある、と書きましたが改めて調べたところ、僕の勘違いでした。今回は、ここら辺りから話を進めましょう。

福沢諭吉は初めてカレーを食べたのではなく、初めてカレーという言葉を紹介した人物でした。1860年(万延元年)に福沢諭吉は日米通商条約批准書交換のための、使節団の一員として咸臨丸に乗り渡米しました。米国滞在中にサンフランシスコの書店で「華英通話」という中国語と英語の辞書に出会い、帰国後この辞書を翻訳して1861年に出版した辞書の中でカレーという言葉を紹介しています。ただし、この辞書の中で、カレーは英文では「Curry」と表記されていますが、なぜかカタカナ表記は「コルリ」と表記されています。この辞書の中にはコルリの他にも英語らしくない発音を表記した言葉が多数あったそうです。福沢諭吉はオランダ語を学んだ後に英語を学んだ為に、オランダ語風の発音になったのではないかとされていますが、僕にはオランダ語の知識がないので定かではありません。多分、福沢諭吉はカレーとは、どのような調理法なのか、どんな味なのかは訳しただけで判っていなかったと思われます。食べさせてみたかったですね。

さて、それでは日本で初めてカレーを食べたのは誰かという事に移りましょう。江戸時代には鎖国をしていたにも拘わらず、アジア各国に日本人村があった痕跡があります。16世紀後半にはキリシタン大名達がローマへと送り出した、遣欧少年使節団はインドのゴアを経由港として滞在しています。それ以前から多くの僧侶が中国経由でインドに経典を求めて渡っています。僧侶達の一部はスリランカにも渡っていたかもしれませんね。難破した漁師達が東南アジアやインドやスリランカを含む南アジアに流れ着いていたかもしれません。恐らく、これらの人達の誰かしらは、現地の日常食であったカレーを食べ

たに違いないと思うのですが、残念ながら記録がありません。

調べてみると、最初にカレーの事を記録した人物は、1863年(文久3年)に遣欧使節としてヨーロッパに向かった三宅秀(ひいず)でした。三宅秀は船上でインド人水夫たちがカレーを食べているのを次のように記録しています。「飯ノ上ニトウガラシ細味ニ致シ、芋ノドロドロノ様ナ物ヲカケ、コレヲ手ニテ掻キマワシテ手ヅカミ食ス。至ツテ汚キモノナリ」三宅秀はそののち東京大学医学部部長になる人です。衛生上の観点から、恐らくは見ただけで食べなかった事と想像できます。

次に記録を残したのは後に東京大学、京都大学、九州大学総長を務めた物理学者の山川健次郎男爵。明治時代に入った1870年(明治3年)、16歳の時に国費留学生として渡米した際の船上でカレーを見聞していますが、「食べる気になれない食物」と記録しています。カレーだけでなく洋風料理もバターの香りを、変な臭いの料理と称して食べていないので、山川健次郎も見ただけでカレーは食べる事が出来なかったと思われます。

いよいよ、カレーを食べたと記録されているのは1871年の岩倉具視を特命全権大使とする使節団の記録です。この使節団には、木戸孝允、伊藤博文、大久保利通など後に明治政府を代表する人達が参加しています。この時の旅行記「米欧回覧実記」にはセイロン島での記録として『地ニ稻ヲウエレハ常ニ熟ス、其米ヲ土缶ニテ炊キ、漿汁(しょうじゅう)ヲソソキ、手ニテ攪セ食フ、西洋「ライスカレイ」ノ料理法ノ因テハシマル所ナリ』と記されています。この中で、スリランカ(当時のセイロン島)は米が豊富に獲れる国である事、簡単ではありますがカレーの調理法と食べ方、カレーライスの料理法が始まった国である事が記録されています。米欧回覧実記には明治時代初期の重要な政治課題が中心に書かれているとは思

ますが、この使節団に参加した明治政府の重鎮達が、どのような思いで日本では味わえないスパイシーな食べ物を、口に入れ飲み込んだのか、どのような表情をしたのかを想像するだけで愉快的気持ちになりますね。

色々と調べてみると、明治初期の軍隊では上記の岩倉使節団とほぼ同じ時期にカレーが食されていたようです。1873年当時の陸軍幼年兵学校では毎週土曜日にカレーが食されていたと記録されています。はて、陸軍とは違って当時の海軍から連綿とつながる伝統として、海上自衛隊では土曜日ではなく金曜日の昼食は現在でも艦長以下全員がカレーを食べています。明治時代の陸軍はドイツ陸軍の指導を受け、海軍はイギリス海軍の指導を受けていたため

でしょうか？ 何だか話が大きくなってきたので、陸軍と海軍の伝統の違いはここで止めてカレーに焦点を戻しましょう。明治時代初期には、イギリスがインド・セイロンを植民地としていました。駐留するイギリス海軍では食事の材料に現地で産する食材、調理法を取り入れていましたので、カレーもメニューの一つだったのでしょう。このことが、日本海軍の食事に影響を与えていたと考えられます。

毎度の事ですが、セイロン・カレーから話が脱線してしまいました。次回はカレーの語源などを書きたいと思います。

■参考文献

水野仁輔：カレーライスの謎(角川SSC新書)，2008.

小菅佳子：カレーライスの誕生(講談社学術文庫)，2013

◆'わんりい'活動報告①

講演会「雲南省昭通市魯甸県 地震災害地を訪ねて」

講師：初鹿野恵蘭氏(認定NPO法人・日本雲南聯誼協会理事長)

於：町田市民フォーラム・視聴覚室 2015年1月12日(祝)

2014年8月4日に、中国雲南省昭通市魯甸県を震源とする地震が発生し現地に甚大な被害をもたらしました。雲南省少数民族への教育支援を続けている「認定NPO法人・日本雲南聯誼協会」より現地教育復興支援の呼びかけに応じて、'わんりい'では会員及び関係者の皆様に義捐金協力をお願いしました。寄せられた皆様の暖かいお気持ちは、11月下旬に協会にお届けしました。

今回の報告会は、その折、協会から「お預かりした義捐金は責任を持って有効に使用させていただきます」とのお返事と共に「義捐金をお寄せくださった皆様に現地の様子をきちんと報告したい」との申し出も頂き開催が決まりました。

当日の参加者は、新年早々ということもあってか17名と少なめでしたが、遠方から参加された方もあり、又参加の皆さんは熱心に初鹿野理事長の話に耳を傾け、被害の深刻さがより鮮明に印象づけられる写真に見入りました。

初鹿野理事長から、2011年3月の東日本大震災



の時は、かつてM7.0の地震によって壊滅的な被害を受けた雲南省麗江大地震(1996年)の折に日本の皆さんの支援を受けた雲南の人々から多くの心配メールと共に、当時頂いた支援のお返しをしたいとの申し出を沢山頂いたとの話があり、今も協会は東北被災地の皆さんとの交流が続いているとのことです。国と国との関係が多少ギクシャクしていても、お互いを気遣うことで、人々の心は強く結ばれるのだと、改めて実感しました。

2015 羊肉のシャブシャブで新年を祝おう！

於：麻生市民館・料理室 2015年2月8日(日)

2015 年を迎え、'わんりい' の活動は四半世紀を越える歴史を刻み又新しいページが加わります。しかし、この間、会の仲間を何人か見送って来ました。また毎年、思わぬ自然災害や物騒な事態により、多くの方々が犠牲になっています。新年会という楽しい行事に集える感謝をこめて 1 分間の黙祷をささげた後、京劇俳優殷秋瑞さんが鍛えられた美声で、京劇風「新年好！」挨拶で新年会が始まりました。

'わんりい' メンバーたちに加わって、殷秋瑞さん他、満柏画伯・イエリンさんご夫妻の家族、'わんりい' 中国語勉強会の郁唯先生、NPO チベット初等教育基金会の烏里烏沙さんや中国人留学生 5 名に、今年は 2010 年夏前まで 'わんりい' の「中国語で歌う会」で指導の趙鳳英先生が、ご夫君の呉万新さん、お嬢さん等と共にご家族お揃いで久し振りにご出席くださいました。

趙先生は、2010 年に四川音楽大学に招かれてご夫君ともども四川省成都へ帰り、以来同大学で指導を続けてこられました。新年会には欠かさずご出席下さっていましたが、帰国以来、お目に掛かる機会のないままでした。今年は丁度この時期に来日されておりご出席くださいました。現在、ご夫妻は四川音楽大学の教授として、趙鳳英先生は声楽、ご主人の呉万新先生は作曲の指導者としてご活躍です。お二人は 'わんりい' との交流も深く、かつて「中国語で歌う会」でご指導を受けた人々をはじめ、先生を存じ上げる人々が、歓声を上げて先生ご一家をお迎えしました。

司会の有為楠さんが、新参加者のためにシュワンヤンロウの食べ方を紹介の後は、年に一度の機会とばかり、超薄切りの羊肉を鍋に入れ、男性スタッフが腕に撚りをかけた特製シュワンヤンロウ用のたれと香菜・他をたっぷり掛けてフーフー言いながらひたすら食べ、旧交を温め、新参加者とも話を弾ませて楽しい時間を過ごしました。

“シュワンヤンロウ” を堪能の後、ケーナ演奏の山下孝之さんが「コンドルは飛んでゆく」、江ノ電 100



周年記念事業で見事作曲部門特賞を獲得したご自身作曲の「好きです江ノ電」を演奏。続いて、久し振りに恩師と再会して元気の出た「中国語で歌う会」の元メ



携帯用のキーボードで伴奏の
趙鳳英さん

ンバーを中心に、「茉莉花」（江南地方の民謡を中国語で）、「北国の春」（中国語と日本語で）、東北復興支援歌「花は咲く」の 3 曲を全員で歌って、楽しい気分を盛り上げました。

恒例のビンゴに続く、これ又 'わんりい' 新年会恒例の「お笑い福引」では、参加者が引き当てたクジ引きに書かれたコメントに応じて出てきた品物に笑い合い和やかに新年会を終了しました。

『空耳図書館』のはるやすみ2015 こどもワークショップ 2題
 一日だけのちょっと不思議な“空耳図書館”^{*}(そらみみとしょかん)^{*}
 平成 26 年度子ども夢基金助成事業



①アーティストといっしょに 絵本の世界であそびましょう!

アーティストは絵本で何をするの?

- 外山晴菜さん (ダンサー／振付家)
- 橋本知久さん (時間芸術家／アトリエ・ラーノ主宰)

2015年3月27日(金) 10:30～、13:30～ (受付15分前)
 和光大学ポプリホール鶴川 (3Fエクササイズルーム)
 (町田市能ヶ谷1丁目2番1号小田急線鶴川駅北口徒歩3分)

- ◆ 対 象: 小さいお子さん (赤ちゃんも可) と保護者の方
- ◆ 定 員: 各 10組程度 (申込み順／定員になり次第締切り)
- ◆ 参加費: 無料

②ダンスだけどダンスじゃない。

ハッピーバースデー! アンデルセン!

- 外山晴菜さん (ダンサー／振付家)
- 橋本知久さん (時間芸術家／アトリエ・ラーノ主宰)

2015年4月2日(木) 10:30～、14:00～ (受付30 分前)
 ※ 4月2日は「世界子どもの本の日 (アンデルセンのお誕生日)」
 相模女子大学グリーンホール (多目的ホール)
 (相模原市南区相模大野4-4-1小田急線相模大野駅北口徒歩4分)

- ◆ 対 象: 小学生 (相模原市、町田市在住優先)
- ◆ 定 員: 各回 20名 (申込み順／定員になり次第締切り)
- ◆ 参加費: 無料 ※動きやすい服装でご参加を!

^{*} 空耳図書館: CONNECTが企画する「本」をキーワードに展開するプロジェクトの総称です。身体や五感を通して本の世界を旅しながら、人とつながり、「本との新しい関係性」を提案します。子ども向けワークショップ、大人向け研究会等も予定しています。

主催／芸術教育デザイン室 CONNECT/ コネクト 問合せ ☎ 042-785-5231 <http://coconnect.jimdo.com/>
 〒 252-0303 相模原市南区相模大野 3-3-2 相模原市立市民・大学交流センターユニコムプラザさがみはら内
 ● お申込みはワークショップ専用サイト <http://soramimiwork.jimdo.com/> からメール tegami.connect@gmail.com をお願いいたします。

新刊紹介

neinei(イエリン)著「好想为你做便当 (あなたのためにお弁当を作りたい)」[中国語]

‘わんりい’ にイラストを描いて下さっていたイエリンさんは、お子さんたちが幼稚園生の時、毎日のようにキャラ弁を作って持たせていました。とても可愛いお弁当で日本のキャラ弁コンクールに出品して特賞に輝いたりしていました。

当時それらの自作のキャラ弁を中国のサイトに投稿するや大評判になり、幼稚園児のお母さん達からのアクセス数がうなぎ上りだったそうです。‘わんりい’でも、2011年3月にイエリンさんを講師にキャラ弁の講習会をし、この時は‘わんりい’の催しには珍しく若い方が多数参加されて楽しめました。

昨年(2014年) 秋、これらのキャラ弁の写真や作り方がまとめられて「好想为你做便当」という一冊の本になり、中国北京の化学工業出版社から出版されました。発売されるや瞬く間に売り上げを伸ばし、生活関連図書の十位内に入るベストセラーになっているそうです。

新年会の折、イエリンさんから一冊を頂きました。彩



りの美しい数々のお弁当の写真やアイディアを盛り込んだおかずづくりが満載で、中国語で書かれているのですが楽しくて見飽きません。ベストセラー、むべなるかなです。寄せられたコメントの一文は、下記のように書いています。

『とうとう本を手に入れた。表紙もとても気に入った。どこも愛情に満ち溢れている! 日本で生活する弁当の達人が、我々に60種類もの、笑顔がはじける幸福弁当の作り方を教えてくれる。弁当は幸福と深い関係がある。各種弁当のほか、栄養豊富な健康弁当・爽やかな精進弁当・多くの炊き込みご飯弁当・豪快な丼弁当・風情のある季節の花弁当・簡単なサンドウィッチ・可愛い幼児用弁当・豪華な祝日弁当。そのほかキャラ弁作成に関する技術・道具の紹介、作者の子供の暮らしに対する理解、日本の“食育文化”の紹介等、内容が非常に豊富である。書名が示すように、あなたのことを考えた弁当づくりの本である』

(訳: 有為楠/書籍紹介: 田井)

◆わんりいの催し

中国語で読む・漢詩の会

漢詩で磨く中国語の発音！中国語のリズムで読んで漢詩の素晴らしさを味わおう！！



▲場所：まちだ中央公民館、第3・第4学習室

▲月日：2015年3月15日(日)/4月5日(日)

▲時間：10:00～11:30

▲講師：植田渥雄先生

(現桜美林大学孔子学院講師)

▲会費：1500円(会場使用料・講師謝礼など)

▲定員：20名(原則として)

*録音機をお持ちの方はご持参下さい。

◆申込み：☎090-1425-0472(寺西)

E-mail:ukiuki65@yahoo.co.jp(有為楠)

◆わんりいの催し

ボイストレーニングをして
日本の歌を美しく歌おう！

あなたも私も笑顔が美しくなる！身体力を抜いて、気持ちよく発声しよう！！

▲3月24日(火)、まちだ中央公民館6F・視聴覚室

▲4月28日(火)、まちだ中央公民館7F・プレイルーム

▲時間10:00～11:30

◆動きやすい服装でご参加ください

▲3月の練習歌「心の瞳」

‘わんりい’の新年会で歌おう！

▲講師：Emme(歌手)

▲会費：1500円(会場使用料・講師謝礼など)

▲定員：15名(原則として)

◆申込み：☎042-735-7187(鈴木)

E-mail:wanli@jcom.home.ne.jp(わんりい)



初心者のための水墨画教室

〈鶴川水墨画教室〉体験のお誘い

生徒のレベルと個性に応じた適切な指導を体験してみませんか。気楽にご参加ください。

●講師：満柏(●日中水墨協会会長)

●場所：鶴川市民センター(駐車場有)

〒195-0062 東京都町田市大蔵町1981-4

<http://www.city.machida.tokyo.jp/shisei/shiyakusyo/gyomu/shimin/com04.html>

●曜日・時間：毎月第2、第4(月)

午後2:00～4:00

●体験参加費：1000円

(見学無料)

●問合せ：野島

☎042-735-6135



天理ギャラリー 第154回展

台湾庶民の版画・祈福解厄

—幸せを願い、邪悪を祓う—

天理ギャラリー 入館無料

<http://www.sankokan.jp/exhibition/gallery/154.html>

■千代田区神田錦町1-9 天理教館ビル9階 ■交通：JR神田、東京メトロ/神田/淡路町/新御茶ノ水、都営地下鉄/小川町

◆2015年2月21日(土)～4月4日(土)

◆9:30～17:30(入館17:00まで)(日曜休館)

台湾では、幸福を祈願し厄を祓う伝統儀礼が脈々と受け継がれています。天理ギャラリー収蔵の多数資料から、内容を「魔物ストップ! 吉祥歓迎!」、「版画に祈る」、「願い事は何?」、「子供を守る女神」、「ここに神あり」、「燃やせば届く」の6コーナーに分け、紙製供物や木版画などを展示します。これらに加え、平成26年夏に台湾で撮影した成人儀礼と「中元・普度」の様子を、写真パネルと映像で紹介。



問合せ：天理教館 ☎03-3292-7025

‘わんりい’ 201号の主な目次

北京雑感(92)北京のスズメ	2
論語断片④鬼神を敬して之を遠ざく	3
媛媛讲故事(71)「和氏璧」V	4
第2回漢詩朗読・創作発表会を聞いて	6
諺・慣用句(37)「薪を抱きて火を救う」	7
中国・城市めぐり(番外)治水の神・禹王について	8
日本探検記(20)「講座にて中国の歌」	11
私にとっての「戦後70年」	12
詩人尹世霖の童詩の世界⑩	14
「翻訳勉強会」(仮称)始めます	15
四姑娘山写真だより(33)春節前の町の風情	16
フィリピン滞在記③マニラのチャイナタウンを歩く	18
スリランカ(85)スリランカ・カレーよもやま話②	20
活動報告「昭通市魯甸県大地震・視察報告会」	21
活動報告「2015新年会」	22
‘わんりい’ 掲示板	23・24

【2015年3月定例会と4月号のおたより発送準備】

両方とも、三輪センター・第3会議室です。

◆3月定例会：3月12日(木) 13:30～

◆4月号おたより発送準備：3月29日(日) 10:30～

＊おたより発送準備の日はお弁当を持参ください。